

「春学期の授業を振り返る」が開催されました

実施報告

日時: 2010年10月11日(月) 12:05 ~ 12:35

場所: 東海大学湘南キャンパス
8号館3階プロジェクト会議室

司会: 尾崎由佳(チャレンジセンター専任講師)

内容: 1. 春学期の授業を振り返る
—授業参観の結果を参考に—
山口勉(チャレンジセンター教授)
岡田工(チャレンジセンター准教授)
園田由紀子(チャレンジセンター専任講師)
2. 質疑応答



春学期の授業を振り返る—授業参観の結果を参考に—

【園田由紀子】「挑み力(入門)」について報告した。授業内容としては、身の周りのことについていかに無関心であるかを気付かせるワークや、論理的思考力を育成するためのトレーニングを紹介した。授業参観の結果を受けて、学生のペースよりも授業速度が速かったのではないかという反省点や、適切なペースがどのくらいであるのかを模索したいという改善点が見つかったことが述べられた。また、授業参観の仕方として、1回分の授業を参観するだけでは授業目標や全体的な構成が見えづらいため、授業担当者がシラバス全体について説明を加えた方が良いのではないかという提案がなされた。



山口勉
(チャレンジセンター教授)



岡田工
(チャレンジセンター准教授)

【岡田工】「プロジェクト入門A」について報告した。授業内容として、「おもしろ理科実験」のデモンストレーション用の教材を作るとともに、説明用のパワーポイントを作り、学生自身に説明させる様子が紹介された。授業参観の結果を受けて、学生たちが授業を通じて成長していく様子がわかり、授業の効果に手ごたえが得られたことが報告された。また、この授業を「自ら学ぶ姿勢を引き出す理系教育プロジェクト」につなげていくために努力したいとの展望が述べられた。



園田由紀子
(チャレンジセンター専任講師)

【山口勉】「ジャーナリズム・ゼミナール」について報告した。教室にとどまらず、現地へ出向くことを重視しており、その一例として、厚木基地の見学会を行ったことが報告された。学生たちが英語で質問できなかったことや、非日常の体験から多くのことを学ぶ機会になったことが紹介された。また、今後の改善点として、見学先のアポイントメントを学生にとらせることなどが述べられた。

質疑応答

Q. (山口先生へ) 学生をどこまでサポートすべきか。学生たちが見学先を選ぶことはできるのか。

A. 学生たちが見学先の選定を行うこともある。春学期にも、学生の希望を受けて山梨県の青木ヶ原樹海の見学を行った。

Q. (山口先生へ) 今の学生は、社会の時事問題についての知識が非常に少ないという前提に立たねばならないのでは。知識が浅すぎる学生を現場に連れて行ってどのような意義があるのか。どのような事前準備をしているのか。

A. 自衛隊・米軍や日米安全保障条約などに関して、事前に数回にわたり教えた。質問者と同様の疑問は抱いており、知識不足を感じている。必要な情報は与えていかなければならないと思っている。しかし、情報を与えずに消化不良になっているのではとも危惧している。

Q. (岡田先生へ) 理科実験のテーマはどうやって決めているのか。

A. グループ分けをした後、グループごとに自主的に決めさせている。新たな実験を一から作り出すわけではなく、既存の実験例がインターネット上に紹介されているので、その中から選択させている。インターネット上の説明どおりに実施したとしても、実際に実験してみると、学生は失敗してしまうことがほとんどなので、失敗を通じた学びができるように指導している。

Q. 本来は、他学科の授業を見学するのが良いのではないか？その方が客観的な批判ができるのではないか。

A. 大学の制度としては、どの学部・センターの授業でも見学できるようになっている。今後は、チャレンジセンターの教員がセンター外の授業を見学したり、センター以外の教員がチャレンジセンター科目を見学しにくるという交流をもっと推奨していければ良いと思う。

A. 以前も、学部の先生が初年次教育の参考にしたいとのことで、センターの授業を参観に来られたことがあった。